

SINCE 1889



第10回 Yamato Scientific Award 2023 ヤマト科学賞募集

ヤマト科学は2014年の創業125周年を記念して、独創性、創造性に富む、気鋭の研究者を顕彰し、人類に夢と希望をもたらす科学技術の次世代リーダーとしての活躍を支援することを目的とした、ヤマト科学賞を設立いたしました。チャレンジングな研究を進められている皆様のご応募をお待ちしております。

募集要項

対象分野： ライフサイエンス、マテリアルサイエンス、インフォメーションサイエンス分野およびその融合領域分野

応募資格： 日本の大学、研究所、企業に勤務し、科学・技術の発展に貢献している研究者

表彰内容： **本賞：賞牌およびトロフィー / 副賞：褒賞金100万円**

応募要領： 自薦、他薦は問いません。所属、略歴、主な研究成果、推薦理由をPDF形式A4版にまとめて選考委員会事務局まで電子メールに添付してご提出ください。
(選考委員会事務局: award@yamato-net.co.jp)

応募期間： **2022年8月1日～11月30日**

選考方法： 選考委員会にて、応募者の成果・功績を公正かつ厳正に判断し、1名を選定いたします。

選考委員会： 委員長：ヤマト科学株式会社 代表取締役社長

森川 智

委員：東京大学 先端科学技術研究センター
がん・代謝プロジェクトリーダー

児玉 龍彦 先生

委員：国立研究開発法人 科学技術振興機構 理事長

橋本 和仁 先生

委員：東京大学 先端科学技術研究センター
サービスVRプロジェクトリーダー
東京大学名誉教授

廣瀬 通孝 先生

※所属および役職は、2022年4月現在のものです。

受賞者発表： 2023年3月に弊社ホームページにて発表いたします。

※授賞式は2023年4月、受賞記念講演を2023年11月に行います。

前回の受賞者



第9回(2022年)

作道 直幸 氏 東京大学 大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻 特任講師

受賞テーマ 「ゴムやゲルの新たな物理法則の発見と解明」

受賞理由 工業的に広く使用されるゴムの高速破壊の発生メカニズムを解明し、さらに医療材料に活用されるゲルの「負のエネルギー弾性」を世界で初めて発見した。その研究成果は、工業用、医療用など様々な分野の新たなソフトマテリアル材料開発に繋がり、高齢社会に向けた健康寿命の延伸や日常生活の質の向上が期待されている。

※第1回～8回の受賞者は裏面をご参照ください。

ヤマト科学株式会社

ヤマト科学賞 過去の受賞者

※所属および役職は2022年4月現在のものです。



第1回(2014年)

内田 健一氏

(受賞時) 東北大学 金属材料研究所 助教
(現在) 国立研究開発法人物質・材料研究機構
磁性・スピントロニクス材料研究拠点
スピンエネルギーグループ グループリーダー

「スピンゼーベック効果の発見と解明」

熱の流れ(熱流)により磁気の流れ(スピン流)が生成される新しい物理現象「スピンゼーベック効果」を発見し、現在世界中で研究されているスピン流熱物理の原点を創造した。



第2回(2015年)

石川 俊平氏

(受賞時) 東京医科歯科大学 教授
(現在) 東京大学 大学院医学系研究科
衛生学分野 教授

「ゲノム病理学による難治疾患の発症メカニズムの解明」

ゲノム病理学という新たな学問領域を提唱し、並列型次世代シーケンサーを用いたゲノム解析に病理学的知見を併わせて、ガンをはじめとする難治疾患の研究に貢献した。



第3回(2016年)

川原 圭博氏

(受賞時) 東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授
(現在) 東京大学 大学院工学系研究科 教授
東京大学 インクルーシブ工学連携研究機構
機構長

「ウェアラブル、ユビキタスコンピューティングを社会に展開するために必要なIoT基盤技術の開発」

IoT、ユビキタスコンピューティング分野においてセンサからシステムまでを垂直的に統合することで、スマート社会の実現に向けて非常に大きなイノベーションの可能性を拓いた。



第4回(2017年)

堀越 桃子氏

(受賞時) 理化学研究所 統合生命医科学研究センター
代謝・内分泌・腎疾患チーム チームリーダー
(現在) 理化学研究所 生命医科学研究センター
糖尿病・代謝ゲノム疾患研究チーム
チームリーダー

「成人期の糖尿病、冠動脈疾患発症における誕生時の遺伝的差異の関与の発見と証明」

代謝疾患研究の国際的なプロジェクトにおいて生命科学と情報科学を融合させた研究を主導し、糖尿病をはじめとする代謝疾患や冠動脈疾患の発症機序の解明に貢献した。



第5回(2018年)

沙川 貴大氏

(受賞時) 東京大学 大学院工学系研究科 准教授
(現在) 東京大学 大学院工学系研究科 教授

「熱力学と情報理論の融合による情報熱力学という新しい理論体系の構築」

統計物理学の成果と(量子)情報理論を融合させることにより、19世紀以来の難問であった熱力学第二法則における「マックスウェルのデーモンのパラドックス」を解決に導き、統計物理学の新しい潮流を切り拓いた。



第6回(2019年)

笠原 裕一氏

京都大学
大学院理学研究科 准教授

「半整数熱量子ホール効果の発見とマヨラナ粒子の実験的証明」

半整数熱量子ホール効果を発見し、長年存在の確証が得られていなかった「マヨラナ粒子」を世界で初めて実証するとともに、量子情報分野で注目される「トポロジカル量子コンピューター」への応用に繋がる重要な成果をもたらした。



第7回(2020年)

太田 禎生氏

東京大学
先端科学技術研究センター 准教授

「総合科学としての先端生命計測の開拓」

人の経験と認識力に頼っていた形態観察に基づく細胞の分類、分取を、新たに開発した蛍光イメージング技術とAI、マイクロfluidicの技術融合により、高感度且つ超高速度化を世界で初めて実現させた。



第7回(2020年)

青山 一真氏

(受賞時) 東京大学 情報理工学系研究科 助教
(現在) 東京大学 先端科学技術研究センター
東京大学バーチャルリアリティ教育研究センター
特任講師

「ニューロ・コンピュータインタフェースの先駆的研究」

ニューロ・コンピュータインタフェース(NCI)技術は、情報科学と生命科学の領域をより強く結びつけられる技術であり、更に福祉やテレワーク等多岐に渡る社会応用も期待できる次世代のVRといえる。



第8回(2021年)

牛久 祥孝氏

オムロン サイニックエックス株式会社
Principal Investigator
株式会社Ridge-i Chief Research Officer

「『ビジョン&ランゲージ』を始めとしたマルチモーダル理解の研究」

画像内容を説明する画像キャプション文の生成を世界に先駆けて実現し、コンピュータビジョン分野と自然言語処理分野を融合させる「ビジョン&ランゲージ」と呼ばれる融合分野を開拓した。現在、この分野をさらに拡張し、多様なモダリティのデータを組み合わせてデータを理解・認識・予測する研究を推進している。

SINCE 1889



Yamato

科学技術の進歩・発展のために

ヤマト科学株式会社

本社: 〒104-6136 東京都中央区晴海1-8-11晴海トリトンスクエア Y棟36階

ヤマト科学賞事務局

〒104-6136 東京都中央区晴海1-8-11晴海トリトンスクエア Y棟36階

☎03-5548-7120 FAX:03-5548-0132 E-mail:award@yamato-net.co.jp

このカタログの記載内容は2022年4月現在のものです。

禁無断転載



www.yamato-net.co.jp